

2014年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社
代表取締役社長 渡邊 健二

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 10
III. 経営計画の進捗状況	P. 11
IV. 2014年3月期通期の業績予想	P. 12-

2013年10月31日

I. 経営状況



A. 2014年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2014/3期 上半期実績 ①	2013/3期 上半期実績 ②	増減額 （前年比） ③＝①－②	増減率 （前年比） ④＝③÷②×100	上半期予想 （5月8日発表） ⑤	差額 ⑥＝①－⑤	率 ⑦＝⑥÷⑤×100
売上高	8,357	7,987	370	4.6	8,350	7	0.1
営業利益	174	157	17	10.9	160	14	9.1
経常利益	223	206	17	8.6	210	13	6.6
当期 純利益	74	113	△38	△34.2	（※）65	9	14.5

（※）9月11日発表業績修正数値

（億円未満切捨て）

2) 連結経営指標

第2四半期累計

（前年同期実績）

・売上高営業利益率	2.1％	（2.0％）
・売上高経常利益率	2.7％	（2.6％）
・ROE	2.9％	（4.7％）
・ROA	1.2％	（1.8％）

◇事業環境に関する認識と確認（経済環境）

政府による経済対策や金融緩和策を背景に、円安・株高が進行し、企業収益の改善や個人消費の持ち直しが見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移。

◇事業環境に関する認識と確認（物流業界の状況）

国内貨物については、輸送需要の一部に回復が見られた。しかし、国際貨物については、引き続き不安定な欧州経済や中国の経済成長の鈍化等も影響し、荷動きが伸び悩むなど、依然として、改善の兆しがなかなか見えない状況で推移。

◇日本発着の輸出入貨物の環境

輸入・航空貨物の取扱いは、9月に若干の回復傾向を見せたものの、全般に低調に推移。輸出・航空貨物に関しては、自動車部品関連の貨物が動いているものの、取扱い重量は前年比2桁マイナスという状況が継続。

海運・輸入貨物の需要は、太陽光パネル関係の取扱いを中心に比較的堅調に推移。海運・輸出貨物は、一般の商業貨物の荷動きには回復感が乏しいものの、設備輸送の需要が売上げを支える状況で推移。

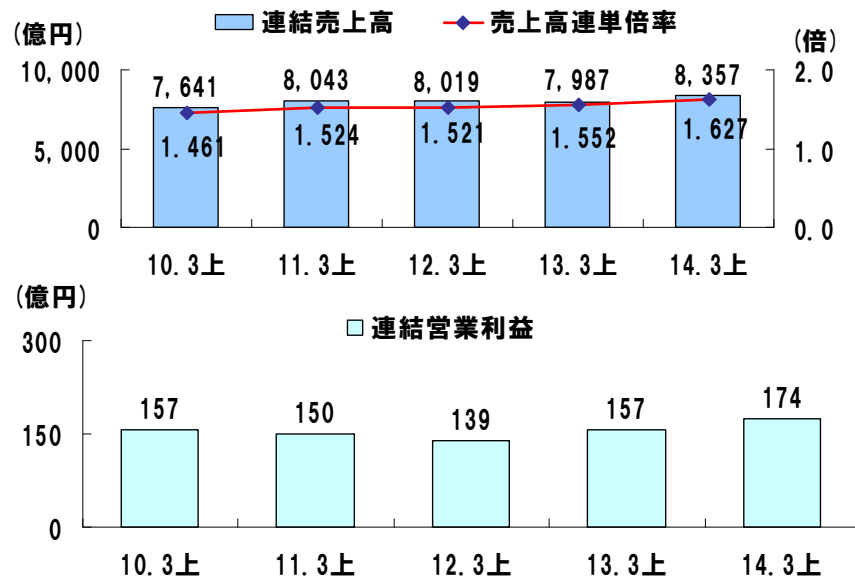
◇海外会社の状況

海外会社全体では、為替の影響と&Aによる新規連結会社の売上げが上積みされ、前年対比で286億円、27.2％の増収。しかし、M&Aの影響を除いた既存のビジネスは、第2四半期に入り若干の改善は見られたものの厳しい状況が続き、海外会社全体の営業利益は、前年比5億8千万円、17.2％のマイナス。

I. 経営状況



B. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2013 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2014年3月期第2四半期決算説明会資料

2

◇売上高の推移

対前年4.6%増加。国内で輸送需要の一部に回復が見られ、「複合事業」セグメントの売上げが増加したこと、為替、およびM&Aによる新規連結効果で、海外セグメントの売上げが押し上げられたこと、「販売」セグメントで、石油類の販売単価上昇により、売上げが伸びたことなどが要因。

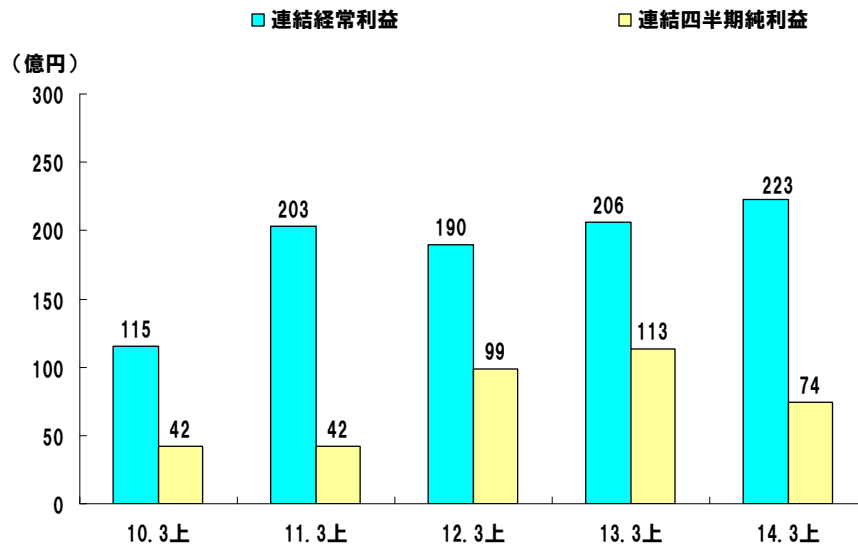
◇営業利益の推移

「複合事業」セグメントの改善により、対前年で10.9%増加。

I. 経営状況



C. 直近5年間の経常利益と四半期純利益の推移



◇経常利益の推移

営業利益が増加したことにより、増益。

営業外収益、営業外費用は、前年と比べて大きな変化はなし。

◇四半期純利益の推移

「転進支援措置」の実施に伴い、特別加算退職金等、約97億円を特別損失に計上していることなどの影響により、34.2%のマイナス。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	3,532	3,460	72	2.1	3,487	101.3	45
	セグメント利益	52	15	37	246.5	33	155.0	18
2Q単 四半期	売上高	1,784	1,737	46	2.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	29	10	18	184.4	1.6(0.6)		
	概況	・ 倉庫、配送センター業務等が堅調に推移したほか、自動車運送需要の回復により、増収 ・ 限界利益管理の強化等、費用抑制により、増益						

2) 警備輸送

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	273	294	△20	△7.1	277	98.7	△3
	セグメント利益	4	9	△4	△47.3	10	48.1	△5
2Q単四半期	売上高	136	146	△10	△7.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	1	2	△1	△42.5	1.2(2.0)		
	概況	・ 厳しい環境下での、サービス単価下落により、減収減益						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇複合事業

倉庫、配送センター業務等の売上げが堅調に推移したほか、自動車運送にも需要回復の兆しが現れ、売上高がわずかながら増加。

これまで売上高が減少を続ける中、限界利益管理の強化や管理費等の固定費の削減など、費用抑制への取組みを進めてきたが、売上げが増加したことに伴い増益につながった。

◇警備輸送

引き続き厳しい競争の中で、サービス単価の下落等があり減収減益。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	181	191	△10	△5. 4	173	104. 9	8
	セグメント利益	10	18	△8	△44. 5	7	139. 9	2
2Q単 四半期	売上高	87	87	0	0. 5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	8	△3	△38. 4	5. 9 (9. 7)		
	概況	・ 海外工事が順調に売上げを伸ばし、売上高は前年並み ・ 前年に比べて大型案件の取扱いが減少し、減益						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇重量品建設

海外工事が順調に売上げを伸ばし、前年と同程度の売上げを確保。

しかし、前年と比べ大型工事の取扱いが少なく、比較的小型の案件を積み重ねている状況が続き、減益。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	881	935	△54	△5. 8	961	91. 7	△79
	セグメント利益	24	18	5	28. 8	20	116. 9	3
2Q単 四半期	売上高	445	458	△13	△2. 9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	8	5	66. 7	3. 0 (1. 8)		
	概況	・ 輸出取扱重量の減少が続き、減収 ・ 航空利用費等が低く抑えられていることにより、増益						

5) 海運

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	672	630	42	6.7	649	103.7	23
	セグメント利益	33	30	2	8.0	31	106.5	2
2Q単四半期	売上高	333	309	23	7.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	12	13	△1	△11.5	3.6(4.4)		
	概況	・ 輸入および内航海運が堅調に推移、輸出は設備関連輸送に支えられ、増収 ・ 海外引越は前年より取扱いが減少し、減益						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇航空

引き続き、日本発の輸出航空貨物の取扱重量は減少しており、当・第2四半期3ヶ月間では、全体で13.4%の2桁マイナス。

航空利用費の水準が引き続き抑えられていること、利用費以外の各種コストの削減に継続して取り組んでいること、旅行事業の収益が前年から改善していることなどから、増益。

◇海運

商業貨物の取扱いのうち、輸入は太陽光パネル関連の荷動きが好調なほか、アパレル、その他一般生活雑貨なども全般的に堅調に推移。

輸出については、一般商業貨物の取扱いがなかなか回復を見せず、主に設備輸送関連が輸出の売上げを支える状況が継続。

内航海運の取扱いは堅調に推移したものの、海外引越の取扱いが前年を割り込んだことも影響し、減益。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	335	260	74	28.6	346	96.9	△10
	セグメント利益	11	9	1	19.0	10	115.2	1
2Q単四半期	売上高	176	142	33	23.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	5	3	56.6	5.1(4.0)		
	概況	・米国内の倉庫配送、自動車運送、メキシコの自動車関連取扱いが堅調に推移						
		・為替の影響を除いて、売上げは前年並み						
		・施設使用料等の費用削減により、増益						

7) 欧州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	341	222	119	53.5	341	100.1	0
	セグメント利益	3	5	△1	△32.8	8	46.7	△4
2Q単 四半期	売上高	177	112	65	57.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	3	△0	△24.6	1.5(3.2)		
	概況	・ 為替および新規連結会社の影響を除くと、減収減益 ・ 航空・海運フォワーディングに加え、倉庫、域内輸送も厳しい状況が継続						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇米州

為替の影響を除くと、売上げはほぼ前年並み。

米国内の倉庫配送、自動車運送は好調を維持。メキシコでも、自動車関連産業のお客様の設備輸送を受託し、海運輸入貨物が堅調。

米州地域の航空フォワーディングの取扱いが減少しており、売上げを大きく伸ばすには至らなかったが、施設使用料等、費用の削減に努め、増益を確保。

◇欧州

円安と新規連結会社の影響を除いた、既存のビジネスの現地通貨ベースの実績では減収減益。

前年の上半期は、航空・海運の輸収入フォワーディングの不振を倉庫配送を中心とする域内ビジネスで補っていたのが、前年第4四半期には、この域内のビジネスも苦戦。この傾向は第2四半期にも継続。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	420	344	75	22.0	414	101.5	6
	セグメント利益	6	7	△0	△12.6	12	55.2	△5
2Q単 四半期	売上高	223	172	51	30.0	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	0	17.8	2.2 (2.4)		
	概況	・ 為替および新規連結会社の影響を除くと、減収増益 ・ 欧米向けのフォーワーディングが回復せず、苦戦						

9) 南アジア・オセアニア

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	243	226	17	7.7	244	99.8	△0
	セグメント利益	5	10	△4	△46.4	10	52.5	△5
2Q単四半期	売上高	128	111	17	15.4	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	4	△1	△23.6	2.8(4.3)		
	概況	・為替の影響を除くと、減収減益						
		・タイ洪水後の緊急輸送の反動減により、航空輸出が大幅減少しているが、倉庫配送、自動車運送はやや増加						

Copyright © 2013 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2014年3月期第2四半期決算説明会資料

8

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇東アジア

円安と新規連結会社の影響を除くと、減収増益。

引き続き欧米向け、特に欧州向けのフォワーディングは回復しておらず、売上げ、利益の両面で苦戦。中国における日系自動車メーカー関連の国内輸送の取扱いは、本年第1四半期と比べれば増えてきたものの、まだ売上げを十分に回復するには至っていない。

配送センター業務の取扱い増加も寄与し、この第2四半期は若干の増益。

◇南アジア・オセアニア

為替の影響を除くと、減収減益。

前年の第2四半期は、一昨年秋のタイの洪水の後に増加した航空・海運フォワーディングの取扱いがあったが、この反動減が大きく影響。

倉庫配送や自動車運送の取扱いがやや増加しているものの、航空輸送の減少分を補うには及ばず。

I. 経営状況



D. セグメント別状況

10) 販売

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額	
上半期	売上高	1,903	1,837	66	3.6	1,890	100.7	13	
	セグメント利益	20	32	△12	△37.5	26	78.8	△5	
2Q単 四半期	売上高	989	917	72	7.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)			
	セグメント利益	10	12	△1	△15.9	1.0(1.3)			
	概況	・石油類の販売数量は減少したものの、販売単価上昇に伴い、増収 ・輸出梱包業務が回復せず、減益							

11) その他

(単位: 億円、%)

		実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	201	191	10	5.6	209	96.6	△7
	セグメント利益	6	6	△0	△0.3	6	99.4	△0
2Q単四半期	売上高	110	105	4	4.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	0	1.0	4.5(4.7)		
	概況	・(日通キャピタル)ロジスティクスファイナンス業務により、増収だが、利益率は伸び悩む						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇販売

日通商事の石油類の販売単価が上昇したことにより増収となったが、輸出梱包業務の取扱いが回復せず、減益。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結（第2四半期累計）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 9.0億円 （費用増）	（前年同期） 軽油 : 112.72円/ℓ（105.85円） ガソリン : 145.92円/ℓ（137.55円） 船舶重油 : 69.37円/ℓ（61.59円）
為替（円安）による影響	売上高 223.9億円 営業利益 7.8億円	上半期平均為替レート（※）（前年同期） USD : 95.59円（79.74円） EUR : 125.50円（103.45円） HKD : 12.32円（10.28円） RMB : 15.47円（12.65円）

（※）上半期平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

III. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
グローバルロジスティクス事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高 比率40%	2014年3月期上半期実績 32.4% (2013年3月期実績 29.7%)
	グローバル市場に おける成長	1) グアナファト ロジスティクスセンター(メキシコ)開設 2) 日通国際物流(西安)有限公司(中国)設立 3) 日通国際供应链管理(上海)有限公司(中国)設立 4) ハイフォン・トラックコントロールセンター(ベトナム)開設
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業利益率3%	2014年3月期上半期実績 1.5% (2013年3月期実績 1.0%) (2013年3月期上半期実績 0.4%)

◇グローバルロジスティクス事業の更なる拡大

日本発の輸出航空貨物の売上げが落ち込む一方で、為替とM&Aの影響により海外会社の売上げが押し上げられ、本年上半期の実績では、32.4%となった。

◇国内事業の経営体質強化

国内複合事業利益率は、この上半期は、1.5%と、前年上半期の0.4%、前年通期の1.0%から改善。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



A. 連結業績予想（修正後）

（単位：億円、％）

	2014/3期 業績予想 ①	前年同期対比			期首予想（5月8日発表）からの修正幅		
		2013/3期 実績 ②	増減額 ③＝①－②	増減率 ④＝③÷② ×100	期首予想 ⑤	増減額 ⑥＝①－⑤	増減率 ⑦＝⑥÷⑤ ×100
売上高	16,900	16,133	766	4.8	16,900	±0	±0.0
営業利益	400	332	67	20.5	370	30	8.1
経常利益	480	415	65	15.7	450	30	6.7
当期 純利益	250	238	11	4.9	250	±0	±0.0

◇修正に至った背景

第2四半期の状況、および、「転進支援措置」の影響を勘案し、5月8日に発表した数値を、上方修正。

日本国内については、政府の経済対策等を背景に引き続き物流需要は、緩やかながら回復をしていくものと見られる。また、2014年4月に消費税率が引き上げられることから、第4四半期を中心に一定の駆け込み需要が発生することが想定される。

海外については、欧州経済は一時の過度に不安視される状況からは抜け出しつつあるものの、未だ景気回復への確かな足取りを感じるには至らず、中国についても、過剰な設備や在庫、シャドバンキングなどの問題が顕在化中、景気回復のペースが鈍い状況で推移。

日本における製造拠点の減少など産業構造の変化もあいまって、行き過ぎた円高が是正されて相応の時間が経過したにも関わらず、一般輸出商業貨物の取扱いの伸びにはつながっていない。海外における域内の物流取扱いも、米州を除いて未だ回復していない。

なお、消費税増税前の駆け込み需要については、現時点で、その規模を想定することが困難であることから、修正業績予想には織り込んでいない。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

1) 複合事業

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	7,120	6,992	127	1.8	7,054	66	0.9
	セグメント利益	138	70	68	96.1	105	33	31.9
下半期	売上高	3,587	3,532	54	1.5	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	86	55	30	55.2	通期2.0（1.0）		下半期2.4（1.6）

2) 警備輸送

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	548	588	△40	△6.9	547	1	0.2
	セグメント利益	10	17	△7	△39.8	16	△5	△33.7
下半期	売上高	274	294	△19	△6.7	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	5	8	△2	△31.8	通期2.0（3.0）		下半期2.2（3.0）

◇複合事業

倉庫の取扱いが堅調に推移することが見込まれるほか、需要回復の兆しが見え始めた自動車運送についても、取扱いを伸ばし売上げの増に寄与するものと見る。

需要の拡大局面にあっても、外注費等、費用の抑制に努め、増益を実現させていきたいと考える。

◇警備輸送

通期では、当初の計画並みの売上げを確保したいと考えているが、利益面では厳しい状況が続くと見る。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

3) 重量品建設

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	345	371	△26	△7.2	331	14	4.2
	セグメント利益	19	29	△10	△34.6	13	5	39.1
下半期	売上高	163	180	△16	△9.2	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	8	10	△1	△18.0	通期5.6（7.9）		下半期5.5（6.1）

◇重量品建設

上半期同様、大型案件が少ない状況が、下半期も継続するものと見る。

小型案件の取扱いを重ねるとともに費用の抑制に努め、前年比で減収減益の予想ではあるが、少しでも今回の予想に上乗せができるよう努める。

風力発電関連の取扱いが本格的に増えてくるのは来期からと見ており、下半期の業績への影響は限定的と考える。来期以降の受注に、間違いなくつなげられるよう準備を進める。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

4) 航空

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	1,786	1,821	△35	△1.9	1,899	△113	△6.0
	セグメント利益	51	39	12	30.3	42	9	22.7
下半期	売上高	904	886	18	2.1	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	27	20	6	31.7	通期2.9（2.2）		下半期3.0（2.4）

5) 海運

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	1,303	1,242	60	4.9	1,302	1	0.1
	セグメント利益	54	46	8	17.2	56	△1	△2.5
下半期	売上高	630	611	18	3.1	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	21	15	5	35.2	通期4.2（3.8）	下半期3.4（2.6）	

◇航空

輸出・航空貨物について、長期間にわたって継続した取扱い重量の減少も、ようやく底を打ち、現在の水準で推移すると見る。

売上げについては、下半期単独では、前年比で2%強の増収を目論む。

上半期同様に費用の抑制に努め、下半期も増益の確保を目指す。

◇海運

一般の輸出・商業貨物の動向には未だ不透明感が漂うものの、海外移転を進めるお客様の設備輸送の需要を、しっかりと取り込むことにより、前年比では増収増益を確保したいと考える。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

6) 米州

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	687	540	146	27. 2	703	△16	△2. 3
	セグメント利益	26	20	5	26. 2	21. 5	4	22. 8
下半期	売上高	351	279	72	25. 8	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	14	11	3	32. 5	通期3. 8（3. 9）		下半期4. 2（4. 0）

7) 欧州

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	688	442	245	55. 5	706	△18	△2. 5
	セグメント利益	7	15	△7	△50. 8	22	△15	△66. 8
下半期	売上高	346	219	126	57. 6	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	3	9	△5	△61. 3	通期1. 1（3. 5）		下半期1. 1（4. 4）

◇米州

引き続き、自動車産業関連のお客様の取扱いが堅調に推移するものと見る。

◇欧州

日本発欧州向けの航空貨物の取扱い重量が、7月から9月に前年比プラスであったことが影響し、航空輸入取扱いがプラスに転じたが、域内の倉庫配送、自動車運送も含め、他の事業の取扱いが総じて低調である状況に変化はなく、前年比で減益と見る。

Ⅳ. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

8) 東アジア

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	892	688	203	29.6	814	78	9.6
	セグメント利益	21	13	8	62.6	24	△3	△12.2
下半期	売上高	471	343	128	37.2	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	14	5	9	175.0	通期2.4（1.9）		下半期3.1（1.5）

9) 南アジア・オセアニア

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比			修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率
通期	売上高	516	442	73	16. 5	529	△13	△2. 5
	セグメント利益	15	16	△1	△8. 2	21	△6	△27. 8
下半期	売上高	272	216	55	25. 7	セグメント利益率の予想（前年同期）		
	セグメント利益	10	6	3	52. 2	通期3. 0（3. 8）	下半期3. 7（3. 0）	

◇東アジア

中国の主要な輸出先である欧州の景気低迷という外部要因に大きな変化はないが、輸出貨物取扱いの減少がようやく一巡をすると見る。加えて、前年下半期には、尖閣諸島の国有化を契機に高まった反日感情を背景に、日系のお客様に減産等の対応が広がる中、当社の売上げも大きく低下していた。この反動に加え、今年新規に取扱いを開始した倉庫案件もあり、下半期単独では、前年比で増益を確保したいと考える。

◇南アジア・オセアニア

航空フォワーディングの取扱いが引き続き低い水準で推移しているが、倉庫配送の取扱いも増やしており、下半期単独では増益を確保したいと考える。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（修正後）

10) 販売

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比				修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率	
通期	売上高	3,987	3,837	149	3.9	3,907	80	2.0	
	セグメント利益	50	58	△8	△13.8	56	△6	△11.8	
下半期	売上高	2,083	1,999	83	4.2	セグメント利益率の予想（前年同期）			
	セグメント利益	29	25	4	16.8	通期1.3（1.5）	下半期1.4（1.3）		

11) その他

（単位：億円、％）

		今回予想	前年同期対比				修正幅		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	期首予想	修正額	率	
通期	売上高	411	418	△7	△1.7	426	△15	△3.5	
	セグメント利益	16	17	△0	△4.9	17	△1	△6.3	
下半期	売上高	209	226	△17	△7.8	セグメント利益率の予想（前年同期）			
	セグメント利益	9	10	△0	△7.6	通期4.0（4.1）	下半期4.8（4.7）		

◇販売

石油類の単価増の影響による増収を見込むほか、輸出梱包の取扱いが回復をしてくるものと見る。

IV. 2014年3月期通期の業績予想



C. 外部要因の前提

	下半期 連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 5.6億円 (費用増)	(前期年間平均) 軽油 : 112.20円/ℓ (106.93円) ガソリン : 147.02円/ℓ (139.06円) 船舶重油 : 68.53円/ℓ (62.07円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +240.5億円 営業利益 +7.6億円	(前年同期(※)) USD : 96.71円 (79.89円) EUR : 127.35円 (101.80円) HKD : 12.47円 (10.30円) RMB : 15.70円 (12.70円)

(※) 前提となる為替レート及び前年同期レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地四半期実績に適用している。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。